

戸畑区

●一枝市民センター

●三六市民センター

市民センターにおける生涯学習事業

区	戸畑区	センター名	一枝市民センター
---	-----	-------	----------

事業・活動名

一枝キッズタイムスリップ講座～温故知新～

事業・活動の背景とねらい・目的

一枝校区周辺には、大学等の教育施設があり、文教区として知られている。家族向けのマンションも多く、多校区と比較しても子どもの人数が多いと感じる。しかし、子どもの生活様式や遊び（携帯電話やゲームなど）の変化により、対人コミュニケーションの不足や伝統行事への興味の低下が見受けられる。そのため、昔ながらの伝統や遊びにスポットをあて、歴史に興味を持ち、伝統行事など、昔から伝わる娯楽を通して、人と繋がる楽しさを感じ、共有することの大切さを体験させることを目的とする。

取組内容

子どもたちが、伝統文化や行事に携わり、昔から継承されているものに触れる機会を作るため、次の5つの体験活動に取り組んだ。

- ① 戸畑祇園 お囃子体験
- ② 落語体験
- ③ 浴衣生活体験
- ④ 小倉織体験
- ⑤ 紙芝居の世界へようこそ

成果・効果

5つの体験をとおして、子どもたちの日頃見ることが出来ない、黙々と集中して取り組む真摯な姿を見ることが出来た。特に、戸畑祇園お囃子体験や落語体験での、講座の最後の発表の機会では、体験したことを表現する自信を持った表情に頼もしさを感じた。また、普段は市民センターに足を運ばない児童が多く参加し、利用者のすそ野を広げることが出来たことは大きな成果であった。

今後の取組

市民センターと児童、保護者との関わりを考えながら、様々な情報にアンテナを張り、興味を引き、参加したいと思う講座を組み立て、取り組んでいく。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

本講座のように伝統行事を後世に繋いでいくための体験活動を含め、子どもの体験活動は人づくりの「原点」と考える。その効果を高めるため、一つの地域で講座を展開するよりも、地域交流などの広域的な事業展開を今後のポイントとしていきたい。

活動の様子

① 戸畑祇園 お囃子体験

国の重要無形民俗文化財に指定されている『戸畑祇園大山笠』。中原大山笠の協力のもと、戸畑祇園お囃子の体験を通して、祭りに参加することの楽しさ、伝統行事を受け継ぐ大切さを実感してもらった。



② 落語体験

プロの落語家を招いて、江戸時代から庶民に親しまれている落語を通して、大勢の前で話すことのコツと大切さを学んだ。また、聞く側も想像力を働かせるために『いろいろな体験をする』ことや『相手の話を真剣に聞く』ことの大切さも学んだ。

③ 浴衣生活体験

昭和初期まで普段着だった着物（浴衣）を着ることで、洋服との動作の違いを感じ、昔の人々の生活を体験してもらった。旧安川邸見学では水風船や水鉄砲遊びを体験し、夏休みの思い出を作ることができた。



④ 小倉織体験

江戸時代から大正時代にかけて、北九州市を中心に作られていた『小倉織』を通し、昔の人々の暮らしや物を大切にする心を学んだ。実際に綿花から綿繰り機で種を取り除き、綿を糸車で紡ぐという作業も体験し、昔の人々がどれだけ手間暇をかけて一つの製品を完成させていたのかを知ることができた。

⑤ 紙芝居の世界へようこそ

子どもには新鮮で大人には懐かしい昔ながらのスタイルで開催し、多世代で一つの娯楽を楽しむ経験をした。話が進むにつれ、子どもたちが前のめりになって聞いている姿が印象的であった。



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

事業の計画にあたり、どのように展開するかのアドバイスを行った。また、各回参加し、子どもたちの活動状況や成果を情報共有することが出来た。

作成者

戸畑区役所コミュニティ支援課 地域・人づくりアドバイザー 鎌田 清一

市民センターにおける生涯学習事業

区	戸畑区	センター名	三六市民センター
---	-----	-------	----------

事業・活動名

いとはんのポン菓子～ポン菓子ができるまで～

事業・活動の背景とねらい・目的

日本国内に住んでいる現在の私たちにとって、平和は普通のこと、空気のような存在である。しかし、世界では、いまだ戦争が行われ、多くの人々の命が奪われていることもまた現実である。世界から戦争が無くなるよう、戦争とは無縁の現代の子どもたちに戦時中に起きたことや戦時中の暮らしを学んでもらい、平和の尊さについて考えることを目的とする。

取組内容

歌川たいじ氏著書の「いとはんのポン菓子」は、第2次世界大戦中から終戦直後の大阪、北九州（戸畑）を舞台に、飢えで苦しむ人達のために「ポン菓子」を考案し、製造する機械を発明した吉村トシコさんを描いた実在の物語です。今回、吉村利子さんと娘の真貴子さんをお招きし、「ポン菓子」の実演と戦時中のお話などをしていただいた。
また、ポン菓子機の実演後、「九州おはなしかご」主宰の金野実加枝さんをお招きし、戦争と平和を描いた紙芝居等の読み聞かせを行った。

成果・効果

戦時中に飢えで苦しむ人達に「ポン菓子」でお腹を満たしてもらいたいという、強い思いで、成し遂げられた戸畑を舞台にしたお話。また、戦争関連の紙芝居等の読み聞かせで、戦後79年を迎え、子ども達が“戦争と平和”について考える機会となった。

今後の取組

市民センターと児童、保護者との関わりを考えながら、様々な情報にアンテナを張り、興味を引き、参加したいと思う講座を組み立て、取り組んでいく。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

本講座のように戦争の悲劇を後世に繋いでいくための、子どもの体験活動は積極的・継続的に取り組むべき講座である。しかし、語り部が減少していく中、人材不足を補うためには、地域交流などの広域的な事業展開をしていきたい。

活動の様子

昔は、まちかどでよく見られた光景。

回転する圧力釜に生米を入れ、釜の中が加圧された状態で、蓋の留め金をハンマーでたたくと大きな音と白煙とともにポン菓子が出来上がる。甘い香りに包まれ、食欲を誘う。

今回は、国産ポン菓子機の生みの親である吉村利子さんと娘の真貴子さんをお招きし、ポン菓子機の実演や利子さんが「なぜポン菓子機を作ったのか。」「戦時中は食糧事情が悪く、子どもたちはいつもお腹をすかせていた。」など、戦時中の状況を小学生に語ってもらった。



また、実演後には、戦争に関連した紙芝居「野ばら」等の読み聞かせを行い、子どもたちが真剣な表情で聞いている姿が印象的であった。

参加した子どもたちは、「2度と戦争はしていけない。」「世界から戦争をなくしたい。」と平和の尊さを考える貴重な機会となった。



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

マスコミへの情報提供を行うなどの広報を行った。

また、事業に参加し、子どもたちの活動状況を情報共有することが出来た。

作成者

戸畑区役所コミュニティ支援課 地域・人づくりアドバイザー 鎌田 清一